

1. 房総の偉人

ここに掲げた人々は、県が昭和38年以降選定した、県民ひとりひとりにとって忘れることのできない郷土の偉人・先覚者の20人です。(生年順によります。)

ちば つね たね
千葉 常胤 (1118~1201)

千葉氏最盛期の猪鼻城主。

にち れん
日 蓮 (1222~1282)

安房郡天津小湊町出身。日蓮宗の開祖。「立正安国論」を説いた人。

ひし かわ もろ のぶ
菱 川 師 宣 (不 詳~1694)

安房郡鋸南町出身。浮世絵版画の創始者。

だい ご しん べえ
醍 醐 新兵衛 (初代・定明) (1632~1704)

捕鯨の父。安房郡勝山で代々捕鯨に従事。

おお き こん よう
青 木 昆 陽 (1698~1769)

山武郡九十九里町と千葉市幕張町で甘露を試作し、普及に努め、大凶作から人々を救った。

い のう ただ たか
伊 能 忠 敬 (1745~1818)

山武郡九十九里町出身。18歳で佐原の伊能家を継ぐ。日本最初の実測地図を完成した人。

おお はら ゆう かく
大 原 幽 学 (1797~1858)

世界最初の産業信用組合をつくり、農民教育と農村改革を実践した。

さ どう たい ぜん
佐 藤 泰 然 (1804~1872)

新しい外科手術や種痘など、近代医学の先駆者。

ほつ た まさ よし
堀 田 正 睦 (1810~1864)

佐倉市出身。佐倉藩主。幕末の進歩的的老中として明治開化に多大の貢献をした。

さ どう しゅん かい
佐 藤 舜 海 (1827~1882)

香取郡小見川町出身。医家。順天堂病院を創立。東京大学医学部前身の大学東校主宰者。

にし むら しげ き
西 村 茂 樹 (1828~1902)

佐倉市出身。佐倉藩の執政。明六社をおこし進歩的文明評論で世を指導「国語辞典」「古事類苑」を編さん。

しば はら やわら
柴 原 和 (1832~1905)

千葉県初代県令。当時の日本三県令の一人。教育に力を入れ、千葉大学医学部の基礎をきずいた。

さ どう し づ
佐 藤 志 津 (1851~1919)

佐倉市出身。情熱の女子教育家。東京女子美術学校初代校長。佐藤高等女学校を設立。

つば い げん どう
坪 井 玄 道 (1852~1922)

市川市出身。教育家。学校体育の基礎を確立した人。

いし かわ くら じ
石 川 倉 次 (1858~1945)

市原市南総出身。教育家。フランスの盲人ルイ・ブライユの考案した点字を50音式に翻案した人。

い どう さち お
伊 藤 左 千 夫 (1864~1913)

山武郡成東町出身。近代歌壇の巨匠。短歌「アララギ」の発刊を主宰。

つ だ うめ こ
津 田 梅 子 (1864~1929)

女子教育の母。わが国最初的女子米国留学生となる。今日の津田塾大学を創立した。

しら とり くら まち
白 鳥 庫 吉 (1865~1942)

茂原市出身。歴史学者。東京大学名誉教授。「満洲歴史地理」「朝鮮歴史地理」をあらわした。

すず き かん たらう
鈴 木 貫 太郎 (1867~1948)

東葛飾郡閻宿町出身。海軍大将。第2次世界大戦終末時の首相。

くに きだ どっ ぽ
国 木 田 独 歩 (1871~1908)

銚子市出身。詩人。作家。自然主義文学の重鎮。「武蔵野」「牛肉と馬鈴薯」等の著書がある。